

◇ さざ波の引いた後 ◇

多田龍介

◆ 目次

自肅下の猓	6
僕はまだ若いか	8
誰もわからない	10
ひねもす	12
inside - insight	14
足元を固めよ	18
酒から逃れて	20
航海日誌	22
さざ波の引いた後	24
豆腐の角に	26

わからない、変わらない	28
You know me	30
くちやくちや	32
豊かさ、格差	34
最近のこと	36
忍ぶれど廃	38
地獄飲みの際に	40
よじれた楽しみ	42
何のサイズか	44
詩人の洞察	46
あとがき	49





## 自肅下の猥

しかしほら何もしないねお上とは  
人の夢食べて生き延び詫びたくて  
もはやもう人の素行は気にならず  
腑に落ちた骨身に染みる痛みこそ  
鈴虫の音は聞こえるが暑すぎて  
コロナでも熱中症でも死は近く  
クーラーの効いて見つけた天国を  
もう今は暴れる血潮も枯れはてて

そして人部屋から一步も外に出ず

若人にそれは無理だとわかります

僕はまだ若いかな

涼しい

先日までの暑さが嘘のようだ

なるほど裸族であった

心のひだまで見えるような

寒い

服着たほうがいいですよ

なんか急に涼しくなると

寂しくなっちゃって

恋人ができたとき用に

ダブルベッドを買っていた



以来、功を奏したことがない  
寝落ちなくてよかったんじゃないかな

僕らは無駄に耐えられない  
こんな完璧な肉体が

無駄に朽ち果てる？

その前に見よ、こうするのだ

どうするのだ

残念ながらその癖はつかなかった

君たちは輝ける時間を  
使って行きましようね！

誰もわからない

どうして、お疲れさまでした  
ゆっくり休んでくださいね！（媚）  
になるのかまるでわからない昨今

全然面白くもない  
じり貧の夜を超えて行かねばならない

AもBも選べない  
どっちつかずの半生を  
堪えることで何か変わるか

こうして大外からじわじわと攻めることで  
形勢はいつの間にか私に有利なものになっている  
とかできたらあゝ

キレてもいいし溜めてもいいし  
ただどう過ごそうが同じ時間で

しかし私は自負している  
今、僕をしていることが  
人類存亡をかけた地球防衛だと

ひねもす

カウンターでものを書くということをしたくない僕、無反動シュート

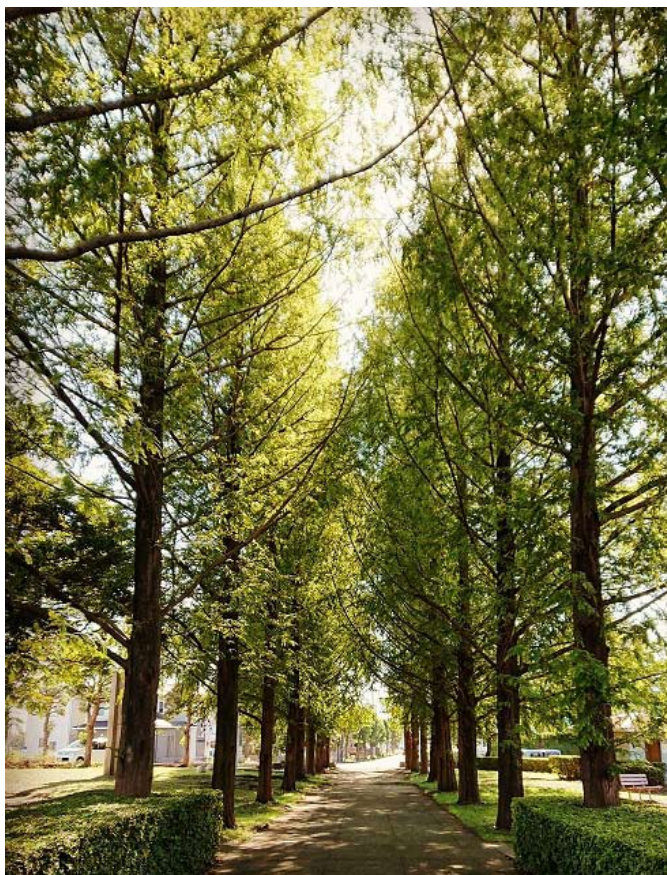
おもえばだ、常に反動でしかないではないか創作とはだ

考える余裕のない人ほどNoと言えないと、Noと言いたい相手がたまう

そうか、なら君は戦え、僕は寝ている。寝ていられるだけのものがあるなら

生き死には語れない、またかける言葉もないものよ、荒廃した心に

わりとただ満足してます、それで君は怒ってしまうかもしれないけれど



## inside - insight

14

More active people, harder it is  
Nesting.

I know  
you feel sick when you stay at home all day.

I was the same at the beginning of school refusal.  
If you exceed it, inside will be supreme.

Yup, if there were person who doesn't go wild in protection room  
it's me.

Special skill that is not so proud  
thank you.

Well we have to reorganize our ego though

Common sense, world view, etc  
has changed.

We who hated everyday life  
now we miss everyday life.

普段行動的な人ほど

巢ごもりは堪<sup>こた</sup>えたに違いない

一日中家にいると気分がくさくさする  
という気持ちもわかる

不登校始めのうちはそうだった  
超えたと内こそ至高になるのだが

そう、保護室に入れられて暴れない人がいるとすれば  
僕をおいて他にない

あまり自慢にもならぬ特技  
ありがとうございます

まあ自我の組み換えをしなければならぬのだが

社会通念とか世界観とか常識とか  
変わってしまい

日常性を憎んでいた僕らは  
日常性を今やいとおしんでいたのだった





足元を固めよ

天下国家を語っている女の部屋（ごみ屋敷）

とかいうことになっていませんか

新しい言葉どんどん増えてくの

楽しいね

楽しいかい

そして誰もわからない

メタ言語はさらに上のメタ言語を必要とし

メタメタメタメタ

君は行く末は相手をめった刺しとかに  
なりませんか、ダメですよ

僕？

僕はとっても正しく正義に生きてるよ

おいしいご飯にぽかぽかお風呂を

用意して掃除して日々の暮らしを整えて

まっとうに

酒から逃れて

心の中では著名人である

私を知らない人はもぐりである

この認識が他者との軋轢あつれきを生んだ

誰に向かって口をきいているのかと

すると大概、えと、どなたでしたっけ  
の返答に怒りを募らせ

こうしてシミュレーションだけで私は  
ロックスターの持つ傲慢と人間不信を  
身に着けていたのだった

それが事実だとして、膜を破けない人類

まあいい

翻って断酒への道は

他者に行動の有無をゆだねていたら  
到底至れない道なのだ

思ったよりあてにならない

どころか傷つけないように気をつけながら  
誰のためでもなく

ただ自分のために生きられるほうに舵を切る

ひいてはそれが人のためともなろう  
しなだれかかる情もなく

## 航海日誌

断酒してむくみが取れて美しい無駄な美がまた哀れを誘う

やりたいのやりたくないのどっちなの腹をくくらにや何もないでよ

何もないほんとに何も起こらないこの広大な電子の海で

際限のない休暇こそ地獄なり僕らは無駄に耐えられなくて

意味なんてないとニヒルに君が言う。よかろうならば暇をつぶそう

I was born to love you とな英語なら生きる意味さえシンプルそうで

何もないと言われますけどけっこうな外は嵐よく気をつけて



さざ波の引いた後

頑張って頑張って…その先に何もなかったら？

だからこそ僕は何も言えずにいたのであり

昔、僕の好きだった作品に

絶望を確かめるといふ希望があると

それはいいが

もつとこう具体的に考えたい

主に政府が

どこが悪くて悪循環に陥っていたのかとか



一足飛びに神も仏もありませんにならずに

悪いかの指摘は既にした

とろいかそれは退けられた

またゆっくり本でも読んで

考える時が来てもいい

## 豆腐の角に

この扱いは不当だと

僕は小さな胸を打ち鳴らし

大声で助けを呼ばりたい

呼ばわってみた

自分が不当と悲惨の憂き目を見た

おお、ここにきて何が本当の不当か知る

あなたは不当を指摘できないと思うんですよ  
固まっちゃうと思うんです

僕が今すぐ優遇されてしまうのは

しかし助けを叫んだからで

そのことで不当は増え

まあ好き嫌いはあるし

えこひいきもあるし

しかし隔離収容所は何とかしていきましようねという

僕の問題提起を受けてくださればいい

わからない、変わらない

詩壇はどこにある。詩誌の中に。買う、うむ、わからん。ああ、一夜にして詩壇の寵児になることを夢見ていたのに。ネット詩の魅力はその間口の広さだ。誰でも書ける。垂れ流しと言われる向きもあるが僕は書き下ろしと言いたい。詩を何か一段高尚なものとして扱えばそれは普段使いを下落させる。生きた言葉は市中にある。

ジェネレーションハラスメントという言葉を見た。年輪という誰も超えられないものを武器に取る姿勢。近頃は何でもハラスメントでハラハラしてしまうのだが、してみるとジェネハラの元祖は孔子様ではないか。そんなことは。

テレビで政治家の顔を見る。お爺ちゃんばかりだ。これらお爺さんは僕ら就職氷河期世代を大層ひどく扱った。これでもかとかばかりに己を無価値だと思わせた。地下に潜った僕らが培ったIT技術など、おいしい所だけをつまみ食いできない。

紙媒体がどうなるのかはわからない。電子書籍にその座を譲るだろうか、かさばるし。ネット詩がどうなるのかもわからない。残っていかないだろうか、シャボン玉みたいに。しかし万葉の詠み

人しらずの歌にも似た魅力を感じている。詩誌がそれを鑑みないというのなら、僕は詩壇を指弾する。うつ、意外に流動的なんじゃないかな。

才能が何かわからないと言っている子がいた。僕にもわからないが、ただ昔からきれいな物を集めるのが好きだった。ハワイの海辺の小石やエジプト風ネックレスなどを持っている。誰にあげるあてもなく。詩もその一環で、壮大ではないけれど可愛い小物みたいに本棚にあったら。そんな愛らしさを前には権威など吹き飛ばす。

You know me

寂しいのは

欠損を見るからだ

たとえば一面的かもしれないが

一面の真実だろう

僕の湯飲みは欠けている、寂しい

考えているように見せかけるだけじゃなく

考えてみなけりゃいけないよ

年に自殺者約三万×二十年〓六十万人の喪失

遺族が五人くらいとして六十万×五〓三百万の

怨嗟えんさ渦巻くこの国で

また向精神薬の売り上げと

自殺者数の増加の割合は

きれいに比例していて

右肩上がり

それでも薬を撒きたがり続けたのは  
金になったから

まあいい

人はただ僕と話したかった

僕は既に廃人で話せなかった

寂しい

こういうことでもいい

くちやくちや

元々めちやくちやな僕らだったから

めちやくちやなまま行こう

めちやくちやな中にも道があり

こう、天衣無縫な感じでどうですか

ダメです

死ぬる

アナタが言ったんですよ、めちやくちやにしてって

言っていないかもしれないが

めちやくちやになってみて思うのは

もういやいやいや

そうか、では恨みが人を生かすこともあるのだと

その念はどこかに向けられねば



彼女自身の身を滅ぼしたに違いない

恨みの対象は親であつたり

医者であつたりしたかもしれないが

僕？

こんな小さな男をそんな

君よ、幸多かれ

豊かさ、格差

寒いはずの冬の夜

寒くない

買い替えたエアコンと足元のヒーターで  
文明の利器は偉大だぜ

それも電気があつたればこそ  
電気なんてこなくなったら、どうしよう

痴呆老人のように  
母がテレビを見ていたので  
netflixに入ってみた

お気に入りのドラマを見られて喜んでいた  
僕のパソコンで

解約したほうがいいか

上等な人間とはどういうものか  
上等なら話をしていいのか  
話を聞いてもらえない者の  
好き勝手なのたまいを

貧者の逆恨みと言われるが  
それは逆恨みだったのでしょうか  
おお、正当な射を射る  
さもありなん、さもありなん

## 最近のこと

つまらないテレビもニュースも一色だ、よおしドラマだアニメはどうだ

そんなわけ課金しました見放題、次はどいつだ電球切れた

こんなわけ買ってきましたLED、よおし取り付けパパすごいだろう

どんなわけ、まあパパではないわけですが万能の人息切れしてる

今というやはり時事ネタしかなくて脳だけで詠む歌などどうか

よくしてる僕を模範と仰ぎつつ本当に皆よく生きている



## 忍ぶれど廃

待つことの辛さを肌で感じます。丁か半かと気をもむ日々

そう思う人に言葉は届かずと書いては消して送信押さず

不愉快な思いで過ごすどう過ごす。助けにもなる日々の雑事が

雨戸開け換気してからごみ捨てへ、まじないめいた朝の儀式も

豚肉を解凍してまじょうが焼き。しょうがないなとまた飲む算段

見てみてよ死地に赴く兵隊の顔をしながらお酒飲んでる



## 地獄飲みの際に

ジャンヌ・ダルクが火刑に処せられ絶命した時には  
近くにいた鳥が一斉に羽ばたいたという

僕が死ぬ時もそんな風になるだろうか  
と、ごみ捨てに行った際に  
電線に止まっている鳥を見て考える

あるいは鳥は気にしないかもしれない

そうではなくても

朝、鳥のさえずりがピーチク  
楽しそうに聞こえて

夕、下校の子らの笑い声が  
楽しそうに響いて



どうやらここは地獄ではないらしいと  
ぼんやりと認識する

## よじれた楽しみ

朝、突然ぶつと途切れるように  
パソの操作がわからない

想像してみてください

僕が逝ってしまったらと

君はいねいね言うけれど

今朝、僕がいなきや困るでしょう

おお、そんな脅しなんてつもりは

そう言えば脅しになってしまい

コーヒーを持ったマグカップを

するっと取りこぼし倒れこむ

そんな姿を想像し

慌てふためく君らの顔を

思いながらほくそ笑む

僕の意地悪な楽しみ

しかしそれも言い続けて十余年

僕は狼少年か

はたまたピノキオか

そんな事いざ知らね

僕はジャックと豆の木が好きでした。

## 何のサイズか

自分を無知だと認知する  
自分の知っていることは  
他人ももう知っていると  
錯覚する

自分は自分を知っている  
他人もそれを知っている  
と思い込みお話しする

当然誰も知らないので  
こうして僕らは没交渉

案ずるな、己は小さく  
他人はでかく見えるだけのこと

そんなことないよ

僕、自分のこと限りなく  
でかく見積もってるよ

身の丈まで縮まれ、疳の虫

## 詩人の洞察

防災行政無線が鳴る

振り込め詐欺にご注意くださいと  
毎度、空襲警報みたいで嫌いだ

世の中にそんなおいしいものがあると  
思っているからそんな目に遭うのだ

では世の中にそんなおいしい  
パッションフルーツがあつたと  
ええ、ここに

人々が多く求めるものに価値があると  
いうのなら  
なるほど、価値があつたかもしれない

求められてないじゃないですか  
アクセス数0ですよ

だからその、恥じらいとか  
奥ゆかしさとか  
手控えてるんじゃないか？

そうなんだ

まあ、あとからでも読むといい





## あとがき

この詩集は二〇二〇年八月から二〇二一年三月までの間にネットに投稿した詩を基本に少し書き足してできあがった。詩人が詩集を作るとき、大抵は採算度外視である。僕は読んでもらえたらそれで満足なのだ。しかし無料ということにすればそこにある種のうさん臭さが芽生え、とここまですで考えるのをやめた。うさん臭いというならば、僕はもうとうにうさん臭かったのだ。

図書館は無料で利用できる。知的財産の共有はそういうものがあってもいい。

写真は常日頃撮ってインスタなどに上げたものから選んだ。より生活に寄り添うような感じになればと。

では、皆の息災を願って。

二〇二一年三月七日

多田龍介



# さざ波の引いた後



著	者
多	田
龍	介
発	行
者	
多	田
龍	介
発	行
所	
明	水
工	房

令和三年三月十日 初版発行

©Ryusuke TADA 2021

